

看護実践基盤実習

[実習] 第2学年 後期 必修 3単位

《担当者名》○明野 伸次 akeno@hoku-iryo-u.ac.jp 横川 亜希子 米川 弘樹 山口 夕貴 吉田 菜摘 白川 まゆこ

【概要】

入院患者を受け持ち、対象者に対する看護を体験しながら看護実践のあり方を学ぶ。

【学修目標】

1. 看護実践のあり方を考える。
2. 医療システムにおける看護職の役割を知る。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
第1段階	1. 看護実践のあり方を考える 2. 医療システムにおける看護職の役割を考える	1) 医療施設における療養環境の特徴を知る 2) 患者の「援助へのニーズ」を明確化する必要性を理解する 3) 看護師と看護場面を共有し、看護行為がどのような目的に基づいているのかを理解する 4) 原理・原則に沿って既習の看護技術を実践する 1) 保健医療チームを構成する職種とその機能を知る 2) 保健医療チームにおける看護学生の役割と責任を果たす 3) 医療情報の種類と内容を知る	明野 横川 米川 山口 吉田 白川
第2段階	1. 看護実践のあり方を考える 2. 医療システムにおける看護職の役割を考える	1) 受け持ち患者の「援助へのニーズ」を明確にする (1) 観察力を活用する (2) 患者が示す手がかりを理解する (3) 不快の原因を突き止める (4) 患者が自分でニーズを満たせるかどうかを見極める 2) 受け持ち患者が必要とする援助を基本的な看護技術を用いて実施する (1) 看護行為がどのような目的に基づいているか説明する (2) 自分の身体を看護行為の中で活用する (3) 看護行為の実施にあたって順序性を考える 3) 実施された援助が必要とされていた援助であったかどうか確認する 1) 受け持ち患者と保健医療チームの関わりを考える 2) 保健医療チームにおける看護職の役割を考える	明野 横川 米川 山口 吉田 白川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

1. 評価対象：第1・2 段階ともに、評価表、実習レポートとする。これらを総合して基礎看護学実習の単位を認定する。
2. 各段階における評価対象の配点、および総合評価の内容
 - 1) 第1段階素点（評価表 70点、実習レポート 30点）
 - 2) 第2段階素点（評価表 70点、実習レポート 30点）
 - 3) 総合評価点 = (第1段階素点 × 0.4) + (第2段階素点 × 0.6) * 小数点以下、四捨五入

【学修の準備】

1. 看護実践に必要な知識について、既習の内容を復習して実習に臨む。
2. 看護技術基礎演習、看護技術演習 ・ で学んだ看護技術について、自己学習して実習に臨む。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.看護専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

【実習方法】

1. 実習施設 札幌市内の病院
2. 実習期間

第1段階は1週間、第2段階は2週間の実習を行う（計3週間）

* 第1段階：2025年 8月18日（月）～ 8月29日（金）の期間のうち1週間

* 第2段階：2026年 1月19日（月）～ 2月13日（金）の期間のうち2週間

【実務経験】

明野 伸次（看護師） 横川 亜希子（看護師） 米川 弘樹（看護師） 山口 夕貴（看護師） 吉田 菜摘（看護師）
白川 まゆこ（看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

病院での看護師としての実務経験を活かし実践的教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している